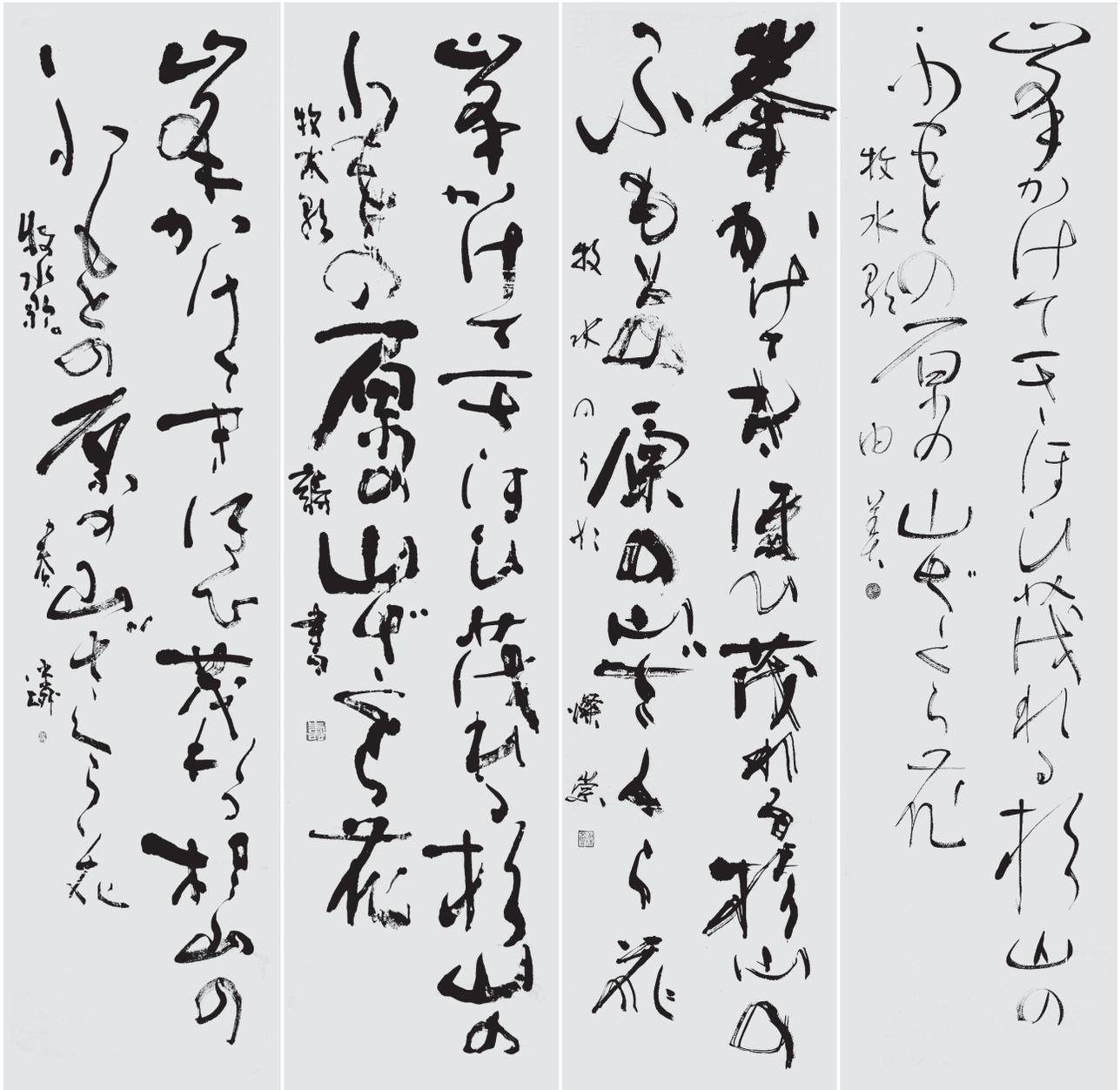


桜井辰雄先生選評



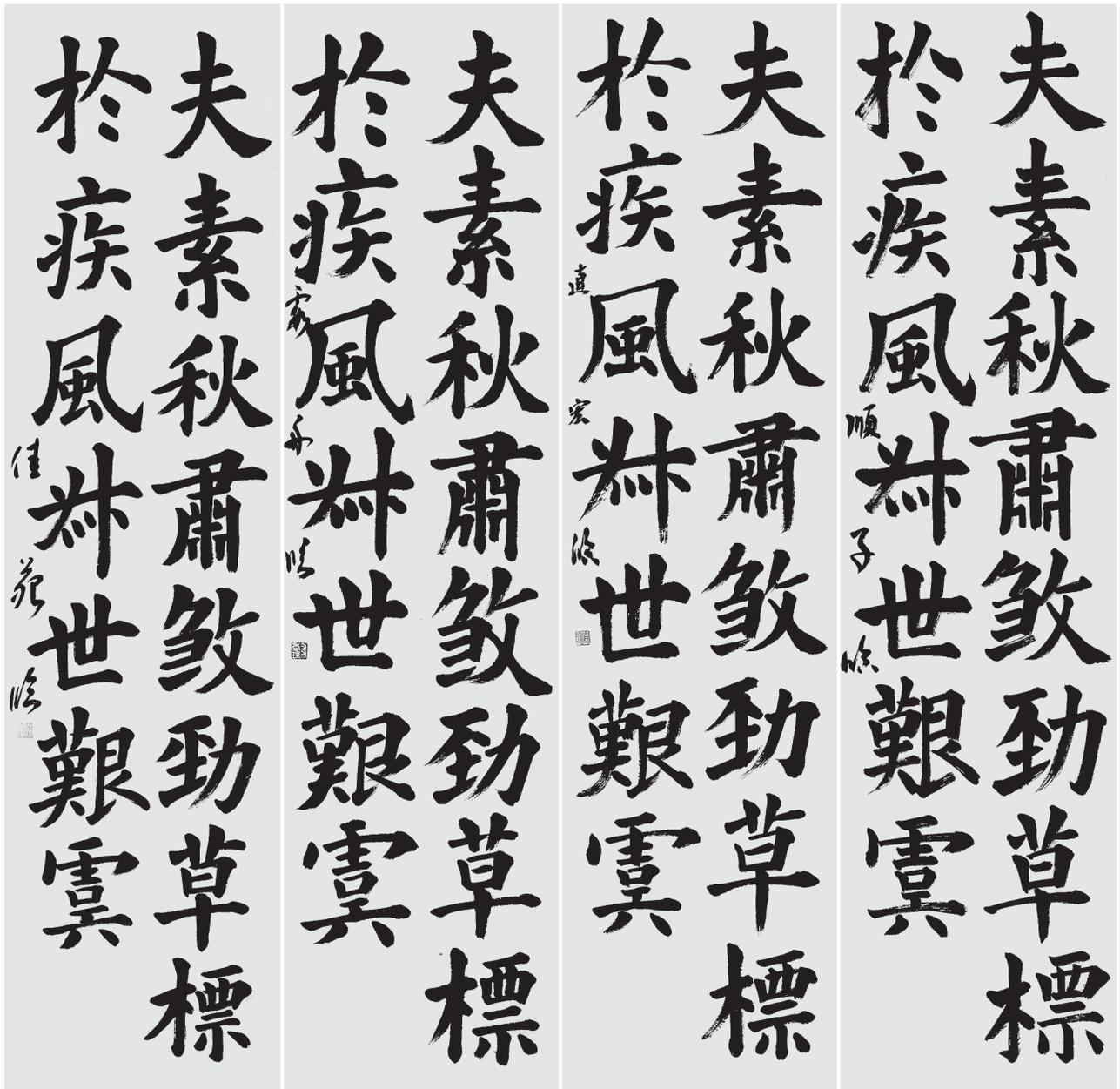
川上由美 推選
細く渴筆の多い作ながら線質は強靱で、まるで鷗亭先生が書かれているかの如く寸分違わぬ呼吸の長いたおやかな連綿が紙面に広がっている。正に漢字とかなが調和している。

今村燦崇 推選
筆の癖も熟知した作者が、働きに任せながら遅速や太細、強弱を加えつつリズムカルに作品作りを愉しんでいる。「ふもとの」表現は周囲と異なるが観桜の嬉しさをも感じる。

大野詩 推選
大河が滔々と流れ往くように筆が紙面にまとわりつき、懐大きくゆったりとした運筆で文字を形作っている。表面的には見えないが線質に内包された実力は隠し切れない。

佐藤奏璘 推選
本文から落款まで何とも遊び心満載で楽しい作になっている。思わず「どんな学書か？」と関心が向いてしまふほどに表情豊かな字形構成は魅力的。

江幡太穠先生選評



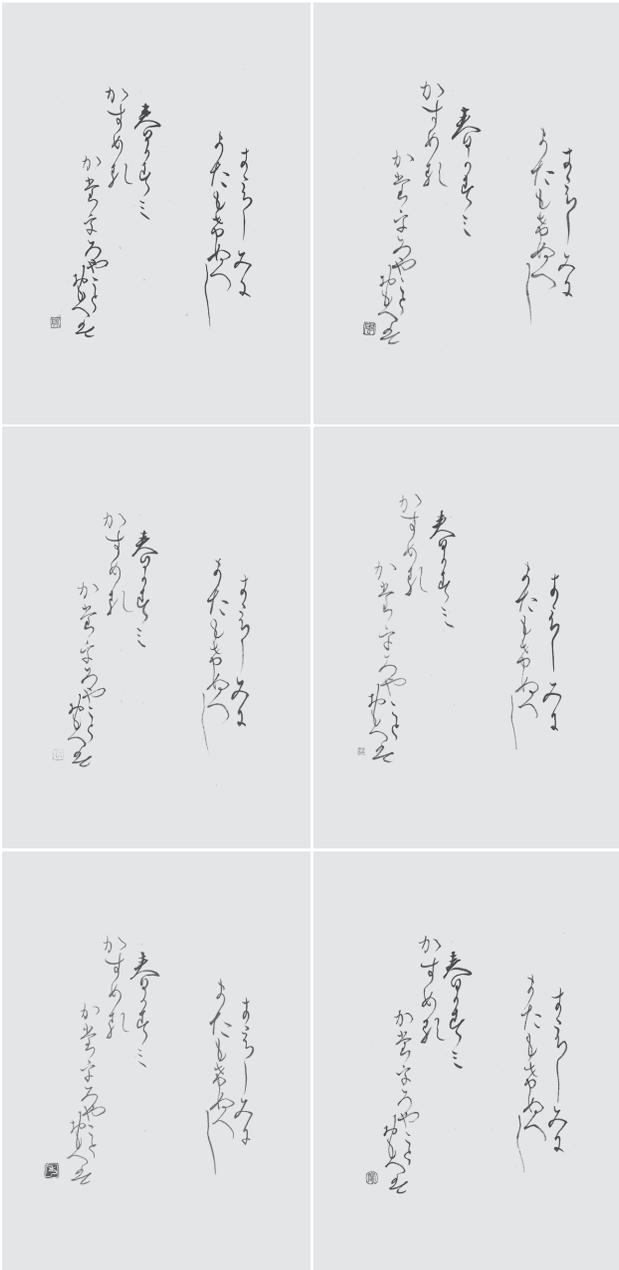
井上順子 推選
 勢良く払いやはね正確で
 最後まで気持ちが行き届い
 ています。木偏や手偏の縦
 画の「はね」正解でしょう。
 「秋」の縦画もはねたかった。
 「叔」の横画は太すぎました
 ね。

有明直宏 推選
 「世」の長い横画の位置と収
 筆が気になります。払は
 はねの浮沈、伸びやかさ、
 確かな転折と落ち着いた筆
 遣い感心しました。本画仙
 の赤い部分は下にしません
 か。

冲山霞舟 推選
 やや大きく太い気もしまし
 が、筆圧強く堂々たる書き
 振りが若々しさを感じます。
 長い横画の起筆軽めに細く
 徐々に太くして止めます。
 「風」の二画目の筆の返しも
 お見事。

清水佳苑 推選
 前者の隣のせい少し大人
 しく観えるが筋金入りの強
 い線で一本一本大切に書か
 れています。貴女も「風」の
 二画目筆の返し、突き上げ
 いいですね！印が薄かった。

吉澤真理先生選評



谷野琢己 準七
浮沈の効いた粘りのある線条はふくよかで温かみがあり好感です。潤濁の変化と行間の広がりにより更に趣のある作となります。

木内英子 六段
参考手本の読み取り深く、文字の小細太の変化をよく捉えています。線質は引き締まり清々しい空気を感ず心地良い。

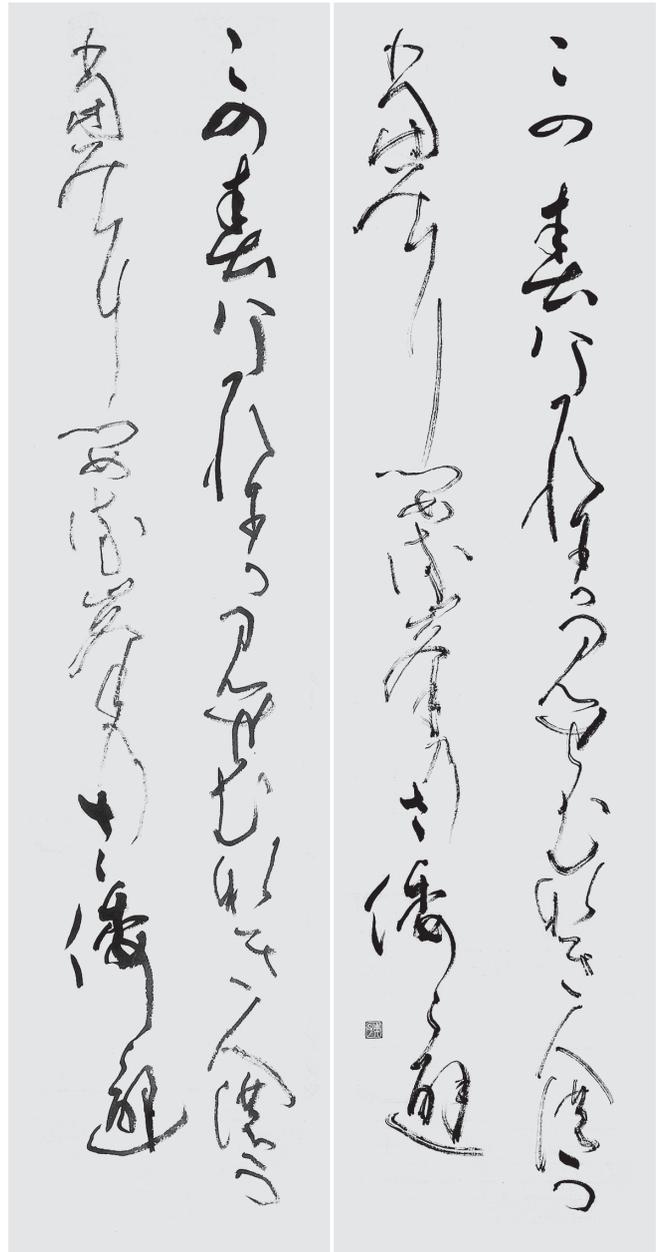
安藤秀苑 四段
瑞々しい筆線で丁寧な運筆されました。前半にカスレを後半に潤いを加味されると左右の濃淡のバランスが取れるでしょう。

村上春風 師範
運腕大きくリズムに乗った堂堂の作です。文字の中に濃淡の変化があり伊勢集のふくよかな潤いある筆線がよく表現されています。

上原加代子 師範
引き締まった線条と軽快なリズムで爽やかさが伝わってきます。潤濁の変化も自然に移るい終句の右への流れうまく収まりました。

菊谷寒鷗 八段
字形美しく緩急の変化に富んだ躍動感ある線条が良い流れを作りました。行の響き合いも良く作品の存在感を高めました。

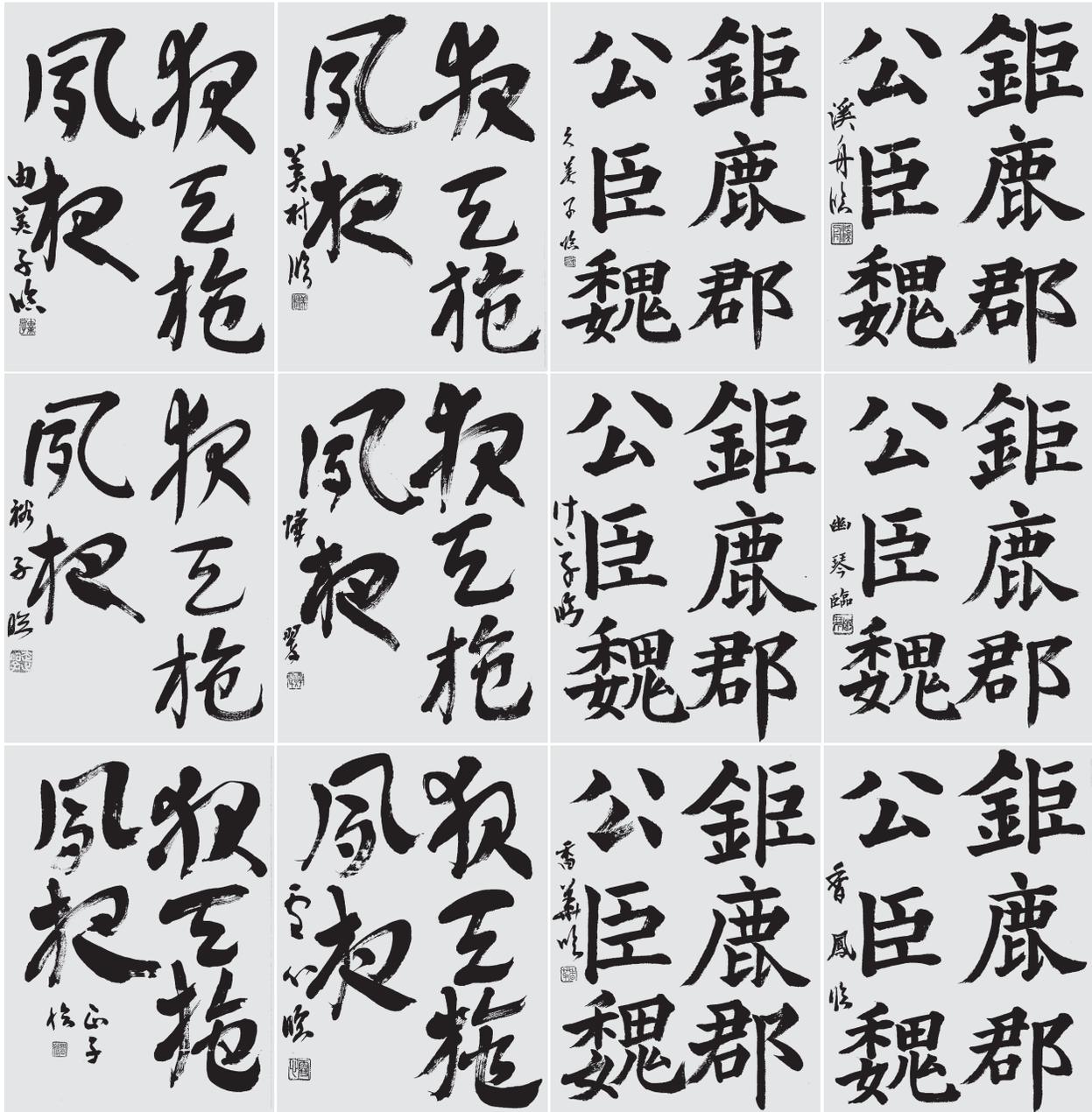
赤富士北祭先生選評



入船 心太郎 推薦
ほどよく筆をつき、しほったりしながらグイグイと書きささる強さを持つ。粗密の変化が全体を響かせ、呼吸の長い線が優雅な空気を表現している。押印がほしい。

小関典子 推薦
間の取り方にも工夫があり、筆の大きな動きから生まれる線は多彩で交響曲を聴くようだ。筆勢もあり細い線ながら深く、温かみのある線は修練の賜物でしょう。

葛西玄濤先生選評



林 溪舟 師範
 清澄で透明感を強く持つ直線は、歐陽詢の線の臨書として重要なことを理解し、表現されている。造形も線の密な部分を強調し、最高水準です。

上原久美子 八段
 小さめの文字でも大きく堂々とした雰囲気を持つています。腕の動きが大きくて、自然な流れで気持ちよい取筆の後に筆を高く持ち上げている。

高橋美村 師範
 柔らかな線に速い筆運びが加わり、変化に富んだ活気のある作になった。手首の動きが柔らかく、線を引く進行方向に筆管を少し傾け自由自在だ。

中村由美子 準八
 墨を多く含ませた筆で、速度を速くして書かれている。自然な滲みの味わいと、速さと高い抜筆で作出した擦れは、互いに魅力を出して美しい。

平岡幽琴 師範
 緊張感を含みながらも伸びやかな直線が、紙面全体に広がっています。少しだけある曲線が、円やかで優しい印象を演出したようで、心温まる。

高橋けい子 準六
 鋭い直線が多くて、完成度の高い作品です。文字内の長い線と短い線が、強弱の変化を作り出して、輝きを増している。明るい印象を強く持った。

梅本燁翠 師範
 じつくりと沈み込む線と飛び跳ねるような軽快な線が、適材適所に働いています。激しい動きを表現しても直筆が多いので、安定感が強くなった。

走出裕子 準五
 速くて鋭い切れのある線が、縦横無尽に走って、楽しく躍動しています。この動きに反して、文字を控えめの大さきにして、美形となった。

佐藤香風 準師
 分厚く重い線を丁寧にゆつくり引いていて、好感です。紙に線がしっかりと食い込むのを待ちながら、鋭い直線を生み出す筆運びに優れています。

三好香華 二段
 紙面いっぱい広がる文字であつても緊張感を出すことに成功した。九成宮の臨書では、伸びやかな鋭い直線が欠かせないのを熟知されている。

石尾雪心 八段
 この木簡の雰囲気を実に表現されています。線の方向や長短太細を正確に捉え、筆運びは躊躇なく滑らかに躍動して、遙かなたに飛翔する。

西山正字 一級
 荒々しい動きで豪快な木簡作品に仕上げた。特徴をしっかりと掴んでからの創作で、臨書作品の方向性の基本に沿って、充実した線が書かれた。